



寄贈図書案内



神谷裕氏より
Jonas Lie著
『Samlade Skrifter I-VII』
(Norstedt & Söners) 他54冊

神戸国際大学教授 桑田優氏より
桑田優著
『近代における駐日英国外交官』
(敏馬書房)

鈴木積氏より
鈴木積著
『「十二」の詩人アレクサンドル・ブローク』
(ティプロ出版)

堀川徹教授より
奥川義尚、堀川徹、田所清克編
『異文化を知るこころ』
(世界思想社)

中元正氏より
樟位正著
『原語の鳥』
(文芸社)

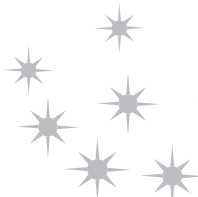
中川昌郎教授より
中川昌郎著
『李登輝から陳水扁 台湾の動向』
(交流協会)

黒澤路可氏より
フランシスコ・オガンド、樋渡紀和子共著
『西和諺の比較辞典』
(高野カトリック協会)

上記の通り寄贈を受けましたので、ここに紹介し、ご恵贈いただきました皆様に本紙面をかりて厚く御礼申し上げます。
(データは平成15年10月現在)
(管理運営課受入係)

金城学院大学名誉教授 今井光映氏より
今井健、今井光映共著
『大学エンrollment・マーケティング』
(中部日本教育文化会)

表紙に掲げられた資料の解説



JOHNSON, Samuel
A Dictionary of the English Language
2vols. London, 1755

ジョンソン『英語辞典』



サミュエル・ジョンソン(1709-84)は、イギリスのリッチフィールドに古本屋の子として生まれた。1728年にオックスフォード大学に入学したが、わずか14ヵ月で退学し、ロンドンで妻の死や経済的な生活苦にみまわれていた。

ジョンソンが生まれた18世紀の前半は言語純正運動の時代で、英国においても近代語確立の動きが芽ばえ、1747年、ロンドンの書籍商組合がジョンソンに英語辞書編纂の仕事を依頼した。彼は古本屋に育ったことから極めて高い書誌知識を身につけていたと思われ、数人の助手と共にこの事業に当たり、8年を費やして1755年に完成したのがこのフォリオ版2巻の大辞典である。Nathan Baileyの *An Universal Etymological English Dictionary, 1721* を基礎にして、全く独自の立場から自分で用例を集め、この難事業を完成に導いたのである。

こうして刊行された初版は好評ですぐに売り切れ、同じ年に再版が出された。それまで使われていた辞典に含まれている言葉の解釈に多くの改善を加え、引用した作家や詩人の数は数百人にのぼる。ただ、引用に日付がないのが欠点とされているが、序文は必読に値する名文といわれている。この後、1世紀の間は幾度も版を重ね、Todd(1818)、Latham(1866-70)らの改訂を経て、近代辞典の編纂家が常に引用する原典となった。

なお、ジョンソンは辞典の完成後の1759年に、一週間で小説 *Rasselas, Prince of Abyssinia* を書きあげたことで名声が高まり、やがてイギリス文壇の大御所的存在になるのである。

原寸 42.4×25.8cm

『洋書百選』(1972年本学図書館刊行)より抜粋し、加筆。